日本学術会議 第 24 期哲学委員会「世界哲学構築のための分科会」

第 2 回分科会 議事要旨

日時：令和元年 11 月 30 日（火）11 時 00 分～13 時 00 分

場所：日本学術会議 2 階大会議室

出席者 11 名：納富信留（委員長）、上原麻有子（副委員長）、藤原聖子（幹事）、河野哲也、戸田山和久、野家啓一、氣多雅子、吉水千鶴子、加藤隆宏、八木久美子、永井由佳里

欠席 4 名：苅部直、隠岐さや香、島菌進、中島隆博

オブザーバー：末木文美士、小林春夫（2 名のシンポジウム発表者は、12 時から参加）

議題

1 世界哲学構築のための活動について

「世界哲学」に関わる活動について、情報と意見の交換を行った。

（1）FISP と WCP について

FIPS 運営委員の納富委員より、2018 年夏以降の状況の説明があった。

（2）各学会などの催し

国内各学会での「世界哲学」の取り組みが報告された。2019 年には、比較思想学会大会、中国社会文化学会大会、京都フォーラム、第 6 回日中哲学フォーラムで「世界哲学」が論じられた。また、IAJP で 10 月にハワイで開催された研究大会で東京学派の哲学について議論されたことが、上原委員より報告された。

（3）出版物

ちくま新書で「世界哲学史」（全 8 巻）の企画が進んでおり、納富委員・中島委員が編集責任に加わっている。他のメディア（雑誌、論文集）などでも「世界哲学」の企画を進めていくことが提案された。

2、学術会議公開シンポジウムについて

本分科会が中心になって企画した同日（11 月 30 日午後）開催の公開シンポジウム「世界哲学の可能性」について、司会（納富委員・上原委員）、提題者（氣多委員、末木教授、永井委員）、コメンテーター（河野委員、小林教授）を中心に、趣旨と段取りを確認した。

3、今後の活動について

「世界哲学」の理念と研究方針をめぐって意見交換を行った。戸田山委員から、「世界哲

学」の推進方向について応用哲学会の活動が紹介され。まずアジェンダを作るのではなく、「応用哲学とは何か」を運動としてまず開始し良いサンプルを見せていくことが必要であると提案された。

「世界哲学 World Philosophy」の定義が各国や各分野でかなり多様であり、今後どのように反省するかが必要であると指摘された。日本国内の活動と、海外での研究を連携して進めていくことが必要であると確認された。

永井委員から、「世界芸術」というテーマは存在せず、あくまで日本の良さにこだわる方向が強いこと、単なる流行ではない考察が必要だと提案された。現代の文化を中心テーマとして考察していく方針が確認された。

4、その他

今年度の分科会開催は今回が最後で、来年度前半に一度分科会を開催する。その他にメールをつうじて情報や意見交換をおこなっていく。

以上、納富記